



年 組 名前

道新でワークシート



有珠山のハザードマップを見ると、噴火の起こる可能性のあるほぼ長方形の区域（噴火想定域）には、洞爺湖温泉街の前にある洞爺湖の湖底も含まれている。

火の山と
生きる
備える

有珠山噴火から20年

マグマと水接触 爆発繰り返し発生

湖底噴火の可能性

専門家 「対策再検討も不可欠」

2000年3月31日の有珠山噴火からきょうで20年。粘性の高い有珠のマグマは20〜30年周期で活動を活発化させ、出口を求めてうごめく。その噴火は、1977年のような山頂噴火と2000年の山麓噴火の二つのパターンがある。専門家がいま最も危惧するのは、想定される山麓噴火の中でも、洞爺湖岸近くの湖底で激しい爆発を起こすケースだ。

（伊達支局 和田年正）

有珠山防災ガイドブックにも山麓噴火の項に「湖岸近くでは、激しいマグマ水蒸気爆発が起ることがあります」との記述がある。

ガイドブックを監修した宇井忠英北大名誉教授(79)は「字数の制約がありそれ以上のはきはき書けなかったが、山頂噴火で北側の山体が崩壊して温泉街を直撃するのと合わせて、湖底噴火は想定される最も恐ろしいケース」と指摘する。宇井氏によると、マグマと水が接触することで急激

な爆発現象が繰り返し発生する。水滴や火山灰が混ざった高速の噴出物（火砕サイジの一種）が吹きつけ、周辺に破壊的被害をもたらすという。南太平洋のトンガ諸島の火山で海底噴火が起き、同様の現象が起きたことが報告されている。

これが洞爺湖温泉街の前の湖底や湖岸で起きたらどうなるか。「影響が及ぶ範囲は火口から2〜3km。高速の噴出物が吹きつけることにより、建造物は破壊され、壊滅的被害が出る」と宇井氏は警鐘を鳴らす。このため「噴火開始前に避難が完了していなければならぬし、住民や観光事業者は日ごろからこうしたことが起こり得ることを意識することが何より肝要」（宇井氏）。増加する外国人観光客向けに多言語で図解を含めた分かりやすい標示をするなど防災対策の再検討も不可欠だという。



背後に有珠山を抱える洞爺湖温泉街。その前には洞爺湖の湖底も噴火想定域に含まれる。●本社へりから、館山国敏撮影

2020年3月31日（火）朝刊 16面（記事は再編集しています）



年 組 名前

道新で ワークシート

①記事にある写真の手前に見える湖と、奥に見える山の名前をそれぞれ書きましょう。

手前に見える湖 ()

奥に見える山 ()

②記事を読み、次の文の () に当てはまる言葉を書きましょう。

- ・有珠山マグマは () ~ () 年の周期で活動を活発化させている
- ・噴火には、1977年の () 噴火と2000年の () 噴火の2パターンがある
- ・自然災害による被害を防ぐために、被災想定区域や避難場所・避難経路などを表示した地図のことを () という

③次に有珠山が噴火する時に備えるため、地域の人にはどんなことをしておくことが必要でしょうか。思いつくことをできるだけたくさん書きましょう。